

池田町教育大綱(第3次)

2024年3月改定

福井県池田町

改定の趣旨

今回の改定では、「未来へつなぐひと育て」を基本理念とし、池田町の未来を見つめ、子どもから大人まで生涯にわたる教育の在り方を示していきます。

池田町では、平成31年3月に教育大綱の改定が行われてから5年が経過しました。前回の改定では「育つ力を育てる」の理念のもと、人の自ら育つ力に着目し、学習者の「能動的に学びに向かう力」の育成を目指すこと、子どもの教育を学校任せにせず家庭・地域が連携しながら子どもを育てていくことなど、池田町の学校教育に限定した方向性が示されました。よって、社会教育を含めた総合的な教育の方向性までは示されてはいませんでした。

今回は、学校教育については前大綱の理念を引き継ぎつつ、新たな社会の変化に対応する内容としました。また、社会教育にも言及し、全国的に進む人口減少・高齢化・コミュニティの希薄化などを踏まえ、地域の課題を当事者である住民自らが解決する力（自治力）の回復による「持続可能なまち」の実現のために、子どもから大人まで「自ら育つ力」を育てていくことを目指しています。

この度の改定に当たっては改定委員会での意見交換のみならず、広く住民の思いを聞き取るために、町内各方面で活躍されている方々との対話会を開催し、そのご意見や思いも踏まえ、大綱の見直しを行いました。

地域の未来を切り開くためには、大人も子どもも周囲の人との豊かな関わりの中で、自らを育てていくことが必要です。この大綱の実現に向けた取り組みが池田町の未来につながるよう今後の諸事業を展開していきます。

1 基本理念 「未来へつなぐひと育て」

「豊国の農村」（持続可能なまち）を目指す池田町にとって、教育によるひと育ては何より大切なことととらえます。豊国は、豊かな人生を送るひとびとによって創られます。ひとは自ら学び続けることで、人生を豊かにするだけでなく、教育の担い手となり、まちづくりの担い手となります。子どもたちも、豊かな農村文化・風土の中で、自ら育つ力を得て学び続けることで、地域の良さを再認識し、いずれまちづくりの担い手となり、これからの社会の担い手となります。ひと育てはこれからの池田町の未来を創る礎と考えます。

2 基本目標

(1) 「育つ力を育てる」(学校教育)

感染症の感染拡大や国際情勢の不安定化など予測のできない社会を生き抜いていくこれからの子どもたちにつけたい力は、前大綱から引き続き「育つ力」と考えます。社会の変化に柔軟に対応し、自ら学び育っていく力を養い育てることです。そのために、少人数教育のメリットを最大限に活かしつつ、主体性を育てるための協同的学びによる「主体的・対話的で深い学び」の実現と、課題やテーマを設定して自分で解決していく「探究的な学び」を進めていきます。また、デジタル技術を生かして学校を変えていく学校DX化に取り組みます。さらに、困難に直面してもあきらめずしなやかに対応していく心を養うポジティブ教育や多様性を認め共に成長していくインクルーシブ教育にも積極的に取り組んでいきます。

(2) 「みんなで育む」(学校と家庭・地域・関係機関の連携協働)

令和5年6月に出された文科省の「教育基本振興計画」の中で、「共働き家庭やひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変

化する中、子育てに不安を持つ保護者も多く、地域全体で家庭教育を支えることの重要性が高まっている。」という一文があります。池田町では、小規模の利点を活かし家庭・地域・学校（園）・行政が一体となり、安心して子どもを産み育てられる環境を目指します。さらに地域人材の教育力や資源（自然・歴史・伝統文化・農業林業などの産業・食文化など）を活かした教育を進め、社会教育と学校教育のつながりを深めることで、地域の担い手となる児童生徒の育成を目指します。また、大学や高校とも連携し、より高度な研究や多様な人材との交流を通して、グローバルな視野を持った人材を育成します。

(3) 「学びを応援する」(社会教育・文化財保護)

だれもが気軽に集えて学ぶことのできる図書館に併設した生涯学習施設を新たに整備するとともに、気軽にスポーツを楽しめる施設を充実し、健康で学び続ける町民の主体的学びを支援していきます。また、能楽に代表される文化財や伝統文化の継承と発信及び学習素材への活用を考えます。さらに福井国体で根付いたクライミングや池田町発祥のウッドスポーツの競技人口を増やすとともに、県内外に発信することで交流人口の拡大にも努めます。

3 重点項目

(1)「育つ力を育てる」(学校教育)

① 少人数教育で生き生きと育つ子ども

少人数教育のメリットを最大限に活かし、一人ひとりの個性や特性に合わせたきめ細やかな教育を推進します。

○児童生徒一人ひとりの学力や理解度、特性に合わせた個別最適な学びを進めていきます。

○少人数だからこそ、一人ひとりの子どもが「主役」になります。発表や実技で自身の機会が多く回ってくるため、たくさんの練習や経験を積むことができます。さら

に児童会、生徒会、委員会、学校行事、部活動等ではリーダーとして活躍する機会も多く、主体的で積極的な行動が磨かれます。

- 一人ひとりに教職員の目が行き届くために、悩みを抱えていたり、特別に支援が必要な場合には迅速で適切なサポートを受けることができます。
- これからの少子化に備え、小学校中学校の9年間を一貫して教育する義務教育学校の設置についても検討していきます。

② 主体的に物事を考え、探究する子ども

「協同的学び」の実践を通して、主体的・対話的で深い学びを実現し、主体的に物事を考え探究する子どもを育てます。

- スーパーバイザー（大学教授）を招へいし、前大綱から引き続き「協同的学び」の実践と研究を小中学校で取り組み深めます。
- 普段の授業や総合的な学習の時間において、問題解決型学習や探究学習に取り組み自ら課題を解決し、探究する子どもを育てます。
- 協働する教職員を目指し、幼小中の教職員が連携を深め一体となって授業研究を進めます。

③ デジタル社会に生きる子ども

学校DX化を推進し、一人一台端末（タブレット）を活かしたICT教育をさらに充実します。

- これまで整備してきた電子黒板やデジタル教科書等の環境を活かし、ICT教育を推進していきます。
- タブレットを活用したAI型教材を導入することで個別最適な学びを実現し、子どもの学力と情報活用能力を伸ばします。
- 外部の教育機関と連携し、プログラミング教育に積極的に取り組みます。
- 校務支援システムを導入し、校務のDX化を進めることで教職員の子どものと触れ合う時間や教材研究の時間を確保します。

④ しなやかで豊かな心を持った子ども

ポジティブ教育やインクルーシブ教育を実践し、しなやかで前向きに物事を考え、多様性を学び人権感覚を持つ心豊かな子どもを育てます。

- 幼小中の11年間を通したポジティブ教育の実践で、自他を認め、逆境に負けないしなやかな心を持ち、常に前向きに生きる子どもを育成します。

○インクルーシブ教育を通して、障害を持つ方だけでなく、外国にルーツを持つ方、性的マイノリティ、経済的格差など多様な人々について、お互いの考え方や個性の違いを受け入れ、共に成長していく子どもを育てます。

(2) 「みんなで育む」(学校と家庭・地域・関係機関の連携協働)

① 連携と協働で、子どもが健やかに育つまち

池田町独自の支援をさらに充実し、子育て家庭が暮らしやすく、家庭・地域・こども園・学校・行政が連携・協働し、子どもが健やかに育つ環境を作ります。

○子育て家庭やこれから親になる家庭が、子どもを安心して生み育てることができるような環境をつくります。

○小中学校の校外での学習については、見聞を広め、自然・歴史・文化などに親しむとともに、集団生活の中で、協力すること、自分で考え行動できることなどの体験を積むことができる貴重な機会ととらえ、町として支援していきます。

○家庭・地域・学校（園）の連携を深め、地域における子育てネットワークの構築や子育て家庭を取り巻く安全安心の確保等、地域で子育て家庭を支える環境をつくります。

② 地域を学び、社会に貢献する子どもが育つまち

地域との連携・協働を深化し、豊富な地域資源を生かした体験活動や地域探究を通して、持続可能な社会を目指し、地域を学び、社会に貢献する子どもを育てます。

○池田町の豊富な地域資源を活かし、子どもの学びの場として、体験活動や地域探究に積極的に取り組みます。

○地域人材によるゲストティーチャーの導入をいっそう進め、小中学校で授業やクラブ活動を行う機会をつくります。

○池田町の脱炭素社会の実現に向けての取り組みを学び、自ら参加実践することで持続可能な社会（SDGsの達成）を目指す人材を育成します。

③ 未来を見つめ、グローバルな人材が育つまち

幼少期から外国語教育に取り組み、県内外や海外の学校や大学、企業、NPOと連携交流することにより、未来を見つめ、グローバルな視野を持つ人材を育成します。

- こども園からのALTによる外国語教育を実施することで、外国語や外国の文化に興味を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする人材を育成します。
- 県内外や海外の学校や大学、企業、NPO等と連携し、児童生徒がいろいろな分野で最新で専門的な知識や技能を学ぶ機会をつくり、未来を見つめ、グローバルな視野を持つ人材を育てます。

(3)「学びを応援する」(社会教育・文化財保護)

① 生涯学び続け、主体的に地域づくりを考えるひと

町民誰もが学び続けることのできる環境を整備し、地域を学ぶ機会を持つことで、シビックプライドの醸成を図り、地域の課題解決に活躍する人材を育てます。

※シビックプライド・・・自分の住むまちを誇りに思うこと。

- 誰もが利用しやすく、図書館に併設した生涯学習施設を整備し、多様な学習機会や気軽に集える場所を提供することで、町民が主体となった学習を応援します。
- 大学や企業と連携し、オンラインも活用しながら、様々な分野における専門的な学習の情報や機会を提供します。(リカレント教育)

※リカレント教育・・・学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すこと。

- 地域住民の社会教育への参画を推進し、地域を学ぶ地元学や親子で取り組む池田学を通して、地域の課題解決や持続可能な地域づくりに主体的に取り組む人材を育て、自治力の回復を図ります。

② だれもがスポーツを楽しみ、健康寿命を延ばすまち

施設を充実し、町民が気軽にスポーツを楽しめる環境を整え、地域スポーツクラブや高齢者も楽しめる参加型のスポーツを応援します。また、地域スポーツ(クライミングやウッドスポーツ)の普及に努め、スポーツを通じた交流の拡大を図ります。

- 各スポーツ施設の維持管理と充実に努め、地域スポーツクラブを中核にして、子どもから大人まで、スポーツを楽しめる環境を作ります。
- 高齢者も無理なく楽しめる参加型のスポーツの普及を応援し、体力の増進を図り健康寿命を延ばします。
- 福井国体を機会に充実したクライミングや池田発祥のウッドスポーツの発信・普及に努め、県内外との交流を図ります。

○池田町の環境を活かし、町民みんなが楽しめる新たな生涯スポーツの普及を考えます。

③ 歴史・文化の薫り高いまち

鎌倉時代から続く能楽文化はもとより、池田町に残る多くの文化財や伝統文化を大切に継承するとともに、町民が心豊かでいきいきと暮らすための文化活動や芸術活動を支援していきます。

○水海の田楽能舞のPR、薪能や能面公募展の開催、能面美術館の充実等を図り、「能楽の里 池田」を全国に発信していきます。

○地域の誇りである文化財や伝統文化を大切に継承し、地域資源として、学校での探究学習や生涯学習において学ぶ機会を創出していきます。

○幅広い世代の町民が参加し楽しめるように、文化芸術活動に対して支援をしていきます。

4 教育施策の実行計画について

この大綱については、別途第2次学校教育向上プランを策定し、施策の評価・改善・実行のPDCAサイクルの中で進めつつ、実行においてはOODA（ウーダ）ループで効率的に改善を図ります。

※OODA ループ・・・Observe（観察）、Orient（状況判断、方向づけ）、Decide（意思決定）、Act（行動）の頭文字をとったもので、PDCAが計画から始まるのに対し、OODAループは、観察から始まり素早く状況を改善する場合に有効。

5 期間

この大綱の施行期間は、2024年度から2028年度までの5年間とします。